

ノリ養殖経過

坂口 研一

目 的

三重県の黒ノリ養殖業の安定化を図るために、生産者に対して養殖環境についての情報提供や病害等の対策を指導するなど、きめ細かな対応が要求されている。そこでノリ漁場栄養塩調査、およびプランクトン調査を行いその情報を発信することにより生産者に対して現在の漁場の状態や今後の対応策についての情報を提供する。

方 法

9月から3月までのノリ漁期中にノリ漁場栄養塩調査とプランクトン調査を実施した。栄養塩調査は伊勢湾のノリ漁場のうち、主漁場となる18測点の栄養塩とプランクトン発生状況を毎週水曜日に調査し、同日中に調査結果をFAXにより県内の関連漁協に送付した。分析項目は水温、塩分、溶存態無機窒素量、リン酸態リン量、プランクトン数である。これらの詳細については関連報文に報告したので、ここには概要を記載する。

結 果

1. 今漁期の気象の特徴

津地方気象台の観測値によると、気温は10月は高め、11月は平年並で推移した。しかし、12月から1月上旬にかけてかなり低め、1月中旬以降は平年並、2月は高めで推移した。降水量は10月は平年並、11月は少なめ、12月はかなり少なめで推移した。しかし、1月は多め、2月はかなり多めで推移した。日照時間は10月は少なめ、11月はかなり多め、12月は多めで推移した。しかし、1月、2月はかなり少なめで推移した。

2. 今漁期の海況の特徴

白子地先の水温は10月はかなり高めで推移し、11月も高めの傾向は続いた。しかし、12月に入ると一転してかなり低めの水温が2月上旬まで続いた。

比重は10月は高めであったことと、3月上旬の一時的な低下を除くと非常に安定した状態で推移した。

桑名地区を除いた栄養塩量については、溶存態無機窒素 (DIN) は10月中旬から11月上旬、11月下旬から12月中旬、1月下旬から2月中旬にかけて少なくな

った。

プランクトンは10月下旬から11月上旬にかけてペリディニウム sp. による赤潮が発生し、11月下旬にはスケルトネマ コスタタムが発生し、1月下旬から2月中旬にかけてスケルトネマ コスタタムによる赤潮が発生した。

3. ノリ養殖経過

今漁期の採苗は順調に行われた。しかし、育苗後期にはノリ芽がペリディニウム sp. の赤潮による極端な栄養不足と引き続いて起こった底層の海水の湧昇による高水温にさらされたことにより、形態や細胞の配列が異常な葉体や、根様糸の発達が悪くノリ網への付着力が非常に弱い葉体が多数発生し、激しい芽落ちと伸長不良が起こった。秋芽網生産期の11月下旬から12月中旬にかけては育苗期に発生した芽落ちや形態異常が影響したことによる葉体の伸長不良と栄養塩不足による激しい色落ちがみられた。また今漁期は、12～14℃の水温帯を飛び越えて12月中旬に早くも水温が10℃を下回った。このようにノリの生長に適した水温帯はほとんどなく、その後も平年に比べてかなり低い水温で推移したことから、葉体の伸長不良がみられた。冷凍網生産期も水温はかなり低めで推移し、伊勢湾ではまれな低水温である6℃台から7℃台の水温が3月に入るまで続いたこと、1月と2月の日照時間がかなり少なかったことにより、葉体の伸長不良が継続した。さらに、1月下旬から2月中旬の約1ヶ月間スケルトネマ コスタタムによる赤潮が発生し、色落ちが継続した。このように、漁期全体をとおして、ノリ養殖に適した海況であった期間が非常に短く、その結果、生産量が非常に少なくなった。

4. 共販結果

年内の三重県の出荷枚数を昨漁期と比較すると、平成16年漁期は3千39万枚であったが、平成17年漁期は2千647万枚と約13%減少した。三重県では近年、年内生産が不調であったが、その中でも特に少ない漁期となった。

3月26日現在までの出荷枚数は全国では平成16年漁期

は約85億4千万枚であったが、平成17年漁期は約88億8千万枚と約4%増加した。三重県では平成16年漁期は約3億183万枚であったが、平成17年漁期は約2億4,123万枚と約20%減少した。3月26日現在までの単価は全国平均では平成16年漁期は1,074円であったが、平成17年漁期は957円と約11%下落した。三重県では平成16年漁期は1,068円であったが、平成17年漁期は896円と約16%下落した。このように、生産量が約20%と大幅に減少し、単価も約16%下落した今漁期は近年に類をみない非常に厳しい結果となった。

関連報文

三重県科学技術振興センター水産研究部 鈴鹿水産研究室・三重県黒のり養殖研究会・三重県漁業協同組合連合会：平成17年度ノリ情報総集編